

6年 国語 自分の考えを明確に伝えるために新聞記事を読み、意見文を書く

実践者 糸魚川市立 糸魚川東小学校 炭谷 希基

指導のねらい

自分の意見文に説得力をもたせるために、新聞記事を効果的に活用する。

NRT学力調査結果の比較から、課題となった伸ばしたい力

- ① 説明的な文章を読む力
- ② 表現を工夫して書く力

学習指導要領における領域・内容

第5学年及び第6学年

C 「読むこと」

ウ 目的に応じて、図表の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。

B 「書くこと」

ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。

実践した学習 単元 《資料名》

自分の考えを明確に伝えよう

「平和」について考える 《平和のとりでを築く》

1 単元の指導目標

- (1) 意見文を書くために、新聞記事を効果的に活用し、要旨を押さえて読むことができる。
- (2) 事実と感想、意見などを区別しながら意見文を書き、互いに推敲することができる。

2 学習のポイント

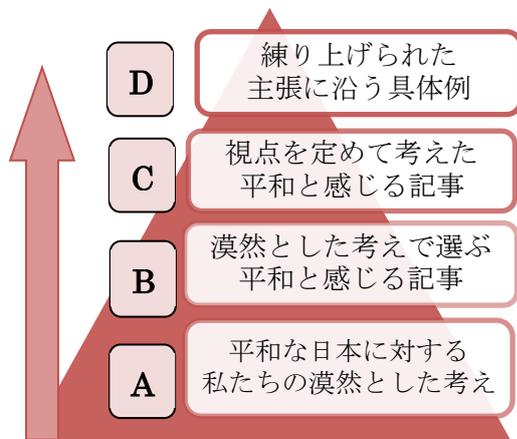
本単元は、自分の意見に深まりや広がりをもたせるための新聞記事を探し、意見文の中で活用する。新聞記事の要旨を押さえるために、見出しやリード文、写真などから見当をつけて自分の主張に合う記事を見つけていくように指導する。また、見つけた記事を友だちと紹介し合い、情報を広げたり深めたりすることを通して、自分の意見をより多角的な方面から考える場をもたせる。さらには対立する意見も意識させながら、具体的な資料をよりどころにして自分の考えを効果的に伝えるようにしていく。これらの学習を、目的に応じて文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえる学習指導要領「読む」のねらいにつなげる。

意見文は、自分の意見、新聞記事に書かれた事実、自分の体験などを段落ごとに分けて書く。また、書いた意見文を互いに読みあい、読み手の立場から内容を検討させる。推敲を通して、相互関係が明確な構成であるか、表現の曖昧さがないかということに気付かせる。これらの学習を、学習指導要領「書く」のねらいにつなげる。

3 具体的な方策

- 具体的な例が掲載されている新聞資料を掲示し、児童がいつでも活用できるようにする。
- 初め（主張する内容）、中1（具体例1 新聞資料）、中2（具体例2 経験など）、終わり（自分の考え）の形式（各200字、計800字）に沿った作文を書く。
- 紛争国の現実と自分の暮らしを比べるなど、他と比べることで平和を感じる学習を設定する。

主張に関連する記事を検討して選ぶ



Sさん学び（作文メモの概要と指導した内容）

D	練り上げられた主張に沿う具体例 日常生活における平和の再認識
C	視点を定めて考えた平和と感ずる記事 日常から失われた平和への気づき
B	漠然とした考えで選ぶ平和と感ずる記事 五輪招致で気付いた世界に認められた平和
A	平和な日本に対する私たちの漠然とした考え 平和とは、日常の生活を笑顔で送ること。

当初Sさんは、食事をしたり学校に行ったりするような、日常の生活を笑顔で送ることが平和ということをもみんなに気付いてもらうための意見文を書こうと考え、A「平和とは、日常の生活を笑顔で送ること」とした。ところが、隣国の紛争のためにオリンピックを招致できなかったイスタンブールの様子と日本を比べた新聞記事を取り上げた。そしてB「漠然とした考えで選ぶ平和と感ずる記事」で、紛争の様子を友達に伝えるための作文メモを作ってきた。この段階では、自分の考えと記事を一致させることができなかったのである。

そこで、作文メモをもとに構想を相談に来たSさんに、主張しようとしている「日常の生活を笑顔で送ること」は、紛争といった日本にとって想像しにくいことよりも、より身近に感ずるような『日常』なのではないかと助言した。さらに主張を際立たせるために、「日常が断ち切られた記事」を探すように促した。

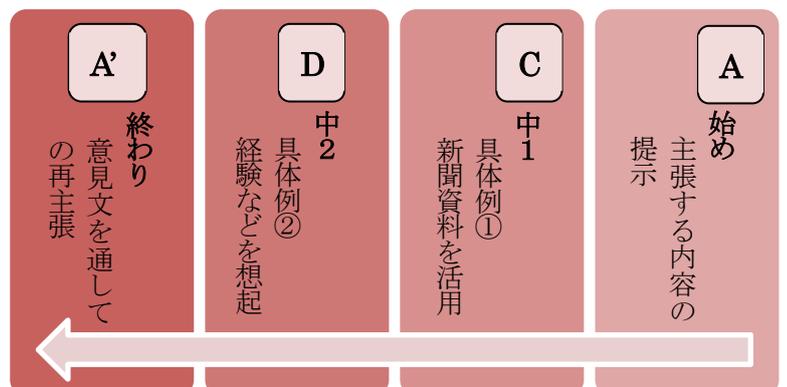
Sさんは、C「視点を定めて考えた平和と感ずる記事」を探すことを通して「飛行機が墜落して娘を亡くした遺族の記事」が自分の主張を強めることに気付いた。そして、娘が事故にあい、そのままずっと家に帰らなかったという記事の「娘の最後の姿が忘れられない。」という両親の訴えを引用した作文メモを作った。

新聞記事を選んだり作文メモを書いたりする学習を通して、D「練り上げられた主張に沿う具体例」では、母が手首をけがして家事や洗濯ができなくなり、自分がやることになったという日々の生活を振り返った。こうして、「当り前のことを当り前にやるのがみんなの笑顔につながる」という日常の生活を笑顔で送ることが平和であるという初めの主張に沿った意見文をまとめることができた。

考えが明確に伝えわるか推敲し、書く

子どもたちは、段落に分けて項目を考えながら書くことで力をつけ始めた。本単元もその力を生かして4段落の作文に取り組んだ。Sさんは、中1の具体例を書くために、視点を定めて考えたCの新聞資料を活用した。

新聞記事という優れた表現をモデルにしなが、内容をよく読み取って、中2で書くべき自分の経験を想起していた。こうして、日常の生活を笑顔で送ることが平和だとみんなに気付いてもらう意見文をまとめた。



話し合いを通して、互いに助言しあえる力を育てる<今後の課題>

それぞれの作文を文集にしてまとめて、グループで発表会を行った。これは、話し合いを通して各々の表現についての具体的な助言を促すためである。それぞれ、自信をもって発表したが、それに対する適切な助言は少なかった。様々な知識や経験を積むことで、互いに修正すべき内容を指摘できるようになっていくと思われる。今後も新聞記事をもとに、自分の考えを深め、友達と比べあう学習を繰り返し指導していく必要がある。